

ずいそう

昔話になった私の趣味

白熊太郎



最近、地球がおかしくなってる気がします。インドネシア・スマトラ沖地震の記憶がさめないうちにパキスタン地震にてインドと合わせると地震の死者が5万人を超えた。日本でも昨年10月に新潟県中越地震があり、山古志村は壊滅的な被害を受けた。最近（10月16日、19日）も茨城近辺を震源にした地震が頻繁に起きてます。日本も地震の稼働期に入ったような話もあり心配です。

アメリカではハリケーン「カトリーナ」によりジャズで有名なミシシッピ州が甚大な被害にあった。ちなみに、アメリカなど中南米にて起こるとハリケーン。日本・アジアなどの太平洋では台風（typhoon）。インド洋などその他はサイクロンと呼ぶそうです。ハリケーンの名前は6年周期で同じリストが使われる。ハリケーン・アンドリューなどの大きな被害を与えた歴史に残るようなものは、二度と使われることなく、新しい名前がリストに加えられるそうです。今年の「カトリーナ」も二度と使われる事がないのでは？

日本では昨年は10個の台風が上陸した。平均は2~3個ですから異常に多い訳です。今年も20個以上の台風が発生していますが、上陸は3個です。平年並みに落ち着いたのか、それなら一安心ですが。

異常な事は、身近でも起きてます。サソリがいたり、川にはピラニアがいたり、ワニまでいる。原因は、大方、飼い主が飼いきれなくて捨てたものと思われる。

前置きはこのくらいにし、このようなことが私の趣味に大きな影響があります。

皆さんも、いろいろな趣味をお持ちだと思います。ゴルフ、カラオケ、将棋、囲碁等々。私はヘラ鮎釣りが趣味でした。あえて「でした」と過去形にさせていただきました。

私のヘラ鮎暦は、20数年前に東京に転勤してからになります。

当時は、茨城の横利根や、霞ヶ浦、荒川、富士五湖などなど有名な釣場が沢山ありました。ある日、小雨降る日に横利根に初めて行った際に、釣り人が傘を差しながらヘラ鮎釣りに夢中になっておりました。赤や黄色や青など、傘の鮮やかな色が今でも目に焼き付いています。ヘラ鮎釣りは、道具も素晴らしく、興きがあり

ます。竿は勿論、竿置き、ビク、タモ、ウキなどなど。釣れなくても、道具をセットするだけで心が安らぎます。

ヘラ鮎釣りは、目の前に見える細いウキの動きだけに神経を集中し、何も考えずに、ただひたすらウキを見ております。ウキが動いたかどうか分からないようなアタリに合わせて釣れた時は最高です。グイグイ引くあの手ごたえが今でもいまでも右腕に残っております。

私は秋田県出身です。秋田の湖と言えば八郎潟です。ヘラ鮎の乗っ込みは春です。丁度ゴールデンウィークの時期です。以前は毎年、田舎へ帰るのが楽しみで、毎年帰郷し滞在中は毎日、八郎潟に出かけてました。広い八郎潟のヘラ鮎は、誠に力強く、引き応えは最高です。時には100匹以上の釣果の時もあり、肩が痛くなるくらい釣れました。

ところが、10年ぐらいい前くらいから釣れなくなり、ここ数年は釣り人もいない有様です。原因は、ご想像の通りブラックバスの繁殖によるためです。ブラックバス釣りが趣味の方は気を悪くなさらないでください。ここ数年は八郎潟では勿論、ヘラ鮎釣り自体行ってません。それゆえ、「趣味でした」と表現させて頂きました。

ブラックバスも当初はアメリカから輸入され、限られた湖に放流された。芦ノ湖や山中湖などに。それで釣りを楽しんでた。しかし、密放流が全国に横行し、従来、生息していた小鮎、ワカサギなどが激減、漁業問題にもなっている。八郎潟もその被害にあった。

無責任なペット愛好家の人達により、近い将来、川にはピラニアやワニ、砂場にはサソリ、森にはアライグマなどが生息し、子供達がおちおち外で遊べないような事にならないか心配です。最近では、野釣りが出来る湖沼が全国的に少ない。もう一度でいいですから、自然が一杯の八郎潟で肩が痛くなるだけヘラ鮎を釣ってみたいものです。もう、無理かな。

ペットを飼いましたら、最後まで責任をもって頂きたいものです。自然を乱さないためにも。